

# 風のように

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

主よ、渇くことがないように。

ヨハネ福音書4：15

## 【説教要旨】

聖書日課の福音書の物語を読みながら私たちは、何度も心を打ち、多くの慰めを得ました。

物語の枠組みを見ていきましょう。物語の枠組みは水汲みということです。砂漠を生きる民にとって、水豊かな私たち日本人以上に水がいかに貴重なものであるかはよく知っていたはずで

です。今日、世界は水を巡って争いが起きてきますし、これからの水資源の課題が世界で噴出していくのだと言われていています。水は国家の安全保障の課題となっているのです。当り前のことですが、水は命のみなもとであることを意識せざるを得ない時代にあります。

物語を読み進めていきましょう。ヤコブの井戸の水を汲みに来るのは、昼の正午であり、またサマリアの女であったというもう一つの物語の枠組みが作られています。酷暑のイスラエルにあって、水汲みは、朝です。よほどのことがない限り昼に水汲みにきません。むしろ暑い砂漠にあって、昼は人っこ一人も歩いてはいないはずで

す。ブラジルに居たとき、昼になるとスーパーマーケットなど店が閉まっているのに驚いてしまいました。人っ子一人、街を歩いている人がいないのです。暑い盛りを歩く人は異常です。このサマリアの女が、人目をさけるように井戸辺に水を汲みにくるとい

うことは何らかの事情があったと想像できます。彼女は普通な人でなかつた。周囲の人から指

差され、軽蔑されていたのではないのでしょうか。

皆さんもご存じのように紀元前722年に北イスラエルがアッシリアに滅ぼされ多くの上流階級の人が拉致され、その上、アッシリアの人が北イスラエルに入植し、雑種政策が執られ、残った人は、混血のサマリア人となりました。彼らは半分のユダヤ人としての血を受け継いでない、さらにサマリア人は独自の聖書を編纂し、ゲリジム山に神殿を作り、似て非なるユダヤ教を奉じているとユダヤ人から差別、軽蔑されていました。サマリア人は民族差別、蔑視がこの世に生を受けた時から始まったのです。この女は、そのうえ差別、軽蔑の中にある仲間からさえも軽蔑されているのです。二重の差別、蔑視の中を生きざるを得なかったのです。

イエスさまは、仲間からさえ差別、軽蔑されていたこの女に負わされた重荷と向かい合ってくださいています。イエスさまは、宗教、人種的偏見からくる差別、軽蔑の壁を取り払われました。自分と同じ目線で、ひとりの人として女と語り合い、向かい合いました。イエスさまの態度、姿に女は驚きを表しています。同時に女はイエスに心を開こうとします。「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」。どうして、軽蔑されて然りの自分にユダヤ人であるイエスはがどうして声をかけるのか驚くのです。驚きと同時にこの方は、今まで出会った人と違うと女は気づくのです。そして、自分の中で解決されない深い悩みをイエスに心開きつつ女は、イエスに語るのです。「井戸は深いのです」。井戸が深いのではない、心の深いところに自分の命を左右するものがある。誰の助けの光も届かないという彼女の闇の深さがあります。命にかかわる叫びがここにある。イエスは、彼女の闇の深い心にある叫びの声を聞かれるのです。一緒に深い井戸に降りてください、女の心の深さまで共に歩んで降りて下さるので、イエスは言われる。夫を連れてきなさいと彼女と歩みをしてくれる者をつれて来なさいと。が、女には心から共に歩んでくれるものはいないことにイエスさまは知っておられます。だ

から、イエスさまは、いない者を訪ねるのでなく、今いる自分を見よと女にイエスは自分を示されるのです。

イエスさまのこの出会いの中で、女がいかなる者かを女に示されるのです。それは、深い井戸の底、闇の底を生きる者でなく、闇の底まで共に歩んでくださるイエスによって、救われ、光の中を生きる人であるということ、神を必要とすることに目覚めさせられるのです。あなたは、本当に私を救え（掬う）ますか。「主よ、あなたはくむ物をお持ちでないし」と。

「女が言った。『わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来られることは知っています。その方が来られるとき、わたしたちに一切のことを知らせてくださいます。』」イエスは言われた。『それは、あなたと話をしているこのわたしである。』」。自分をイエスさまはこの女性に示し、あなたを救います、あなたを助け、共に歩みをなしてくださると示されるのです。イエスさまの救いによって、女がイエスさまにかわって水を汲むことの出来る者であるとされるのです。神の働き人であるということに気づかされ、イエスとの出会い後、女は公然と生き者とされ、イエスをメシアだと公然と証し、人をイエスのもとに、救いのもとに連れてくる、イエスの器に変えられていのです。

イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渴く。14しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」と言われたイエスは、わざわざ水を汲みに来なくても良い。「わたしが与える水を飲む」、神の恵みを飲む。神が水を注いでくださり、渴くことなく、他者にも水を注ぎだし、注ぎだす分、神はまた水を注いでくださる。あたかもその人の内で泉といわれるように泉となって多くの人に命を流し込む、この私たちを神の器としてくださっているのです。

イエスさまが今日も私の前に現れていてくださいます。このイエスさまが今日も私たちと語り合ってください。幸いに感謝して共に歩いていきましょう。

# 牧師室の小窓からのぞいてみると



大変化していく時代に、私たちはどう生きればよいか悩んでいる。

「侵略や殺戮や混乱といった不合理な現象を抱えた人類の歴史も、『活けるキリストの現実』から再解釈が試みられるであろう。キリストの恵みの支配のもとに現代史を解釈する信仰的理性が発揮されて、キリスト教的歴史解釈がなされることは、当然、起こり得るし、起こらなければならないことであろう。（活けるキリストの現実 近藤勝彦 教文館）」と言われ、「活けるキリストの現実」は、「神が共にいてくださる現実」だと言われる。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を生む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は「神は我々と共におられる」という意味である。マタイによる福音書1：23

時代がどうであろうとここに立つことこそ、現実の事象に振り回されることなく、どう生きて良いかということが見えていけるように思える。

まずは、神学校時代の同級生が、『人間と社会～AI時代の「人間らしさ」って何？～』、本を刊行したが読んでみようと思う。

## 園長・瞑想？迷走記



今、羽村幼稚園園庭の遊具が壊れて、これをどうするかとなった。

では、どんな遊具でなくて、どんな園庭がいいのかということに自分の中ではなった。子どもにとって。そこで自分の子どもときの楽しかったことを思い出した。私の周りには海が、山があり、海で遊び、山で遊び、あれほど、楽しかった充実したときはなかった。園庭を自然に返して、自然、溢れる庭に変えていくことはどうかと思った。今の甘木聖和幼稚園は広い。ここでは出来るのではないかとかってに思っている。こう思いを馳せることができるのは園長だけの恵みか。至福のとき。

## 日毎の糧

聖書：主はわたしたちの神、わたしたちは主の民／主に養われる群れ、御手の内にある羊。今日こそ、主の声に聞き従わなければならない。  
詩編95:7



### ルターの言葉から

苦難の中であって、それぞれの召しと身分に従って、神からの助けを確かに待ち望んでよいし、またそうすべきである。

(アウクスブルク信仰告白27条)

決断は〈今日〉

「本詩は50篇、81篇とならび《祝祭三詩篇》に数えられる。詠われる内容は、前半(1節～7節)と後半(8節～11節)で一変する。前半部は『われら』自身に促すようにして詠われる、ヤハウエへの歓呼と拝礼の勧めである。後半部は、それに対して、荒野時代の父祖たちのように心を頑なにしてはならない、と戒めるヤハウエの警告である」① このまったく違う内容をつなぐのは「今日こそ、主の声に聞き従わなければならない。」という7節の言葉である。

メルバ(争いの場所)とマサ(試みる、試みる場所)での背信(8節～10節)、荒野時代の心を頑なにした歴史を語り、今日という歴史の1ページを生きている私たちは、かつての歴史から聞けと伝える。背信、心の頑なさを砕くのは、主の声に聞くことであり、そこからヤハウエへの歓喜と拝礼がおきると讃美する。

関根氏は、「この詩が礼拝と讃美のただ中で、預言者的な神の警告を発しているところに旧約の信仰の真の姿がある。信仰はここでは全身全霊をもって神に従うかどうか、の問題として提起されてくる。その決断は《今日》であり今である」②

まさに今の時代こそその讃美ではないでしょうか。

- |   |            |      |      |
|---|------------|------|------|
| ① | 詩編の思想と信仰IV | 月本照男 | 新教出版 |
| ② | 詩編注解上下     | 関根正雄 | 教文館  |

祈り:歴史から学び、神に従う者としてください。アーメン。

## 甘木通信

コヘレトは言う。なんという空しさ、なんという空しさ、すべては空しい。太陽の下、人は労苦するが、すべての労苦も何になろう。コヘレト1：2



この歳（73歳）になって人生のやることをやったという気持ちがある。そんな自分がもの憂い、何事も投げ出したくなる弱い自分がある。「何かも、もの憂い。コヘレト1：8」。ゴミ屋敷になり、ゴミ屋敷で生活をして平気になるとはこういうことかと思うし、すべて捨てて、お遍路に出て、そのまま消えればなんと幸せだろうか思う。一方、もっと若ければもっとやれるのだという気持ちがある。「語り尽くすこともできず 目も見飽きることもなく 耳は聞いても満たされない。コヘレト1：8」

「何かも、もの憂い。」と気持ちと「語り尽くすこともできず 目も見飽きることもなく 耳は聞いても満たされない。」という未練がましい気持ちが複雑にからまる、まだまだ悟らない自分がある。結局、なんという空しさ、なんという空しさ、すべては空しいということなる。そんな弱い自分と向き合いながら、自分を鼓舞していくのが老いと言うことかもしれないと思うようになっている。

そんな自分を笑うように悠然と自然はある。

風は南に向かい北へ巡り、めぐり巡って吹き 風はただ巡りつつ、吹き続ける。川はみな海に注ぐが海は満ちることはなく どの川も、繰り返すその道程を流れる。コヘレト1：6

(甘木日記)土) 甘木教会の主日の礼拝、役員会の準備。久留米教会へは幼稚園報告の追加報告。掃除。日) 礼拝、役員会后、久しぶりに信徒さんと雑談。月) 早朝、飛行機で羽村幼稚園へ。職員の自己評価委員会。職員の働きに感謝しつつ、次年度に向けての準備になれば。火) 早朝に福岡に。コンサルタントの幼稚園の方向性について報告をいただく。水) 半日、保育。午後から職員会議。預かり保育の園児が帰宅を確かめ自分も帰る。YouTubeで他の教会の説教、講話を聴く。木) 松崎保育で聖書の学び、「箴言」。こどもの礼拝、午後から甘木教会で草取り。金) 保育が終わり、夕刻の飛行機で羽村幼稚園の理事会、評議員会で東京へ。

## おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。 はぐちらない聖人（牧師）もいますが。



土）体調がはっきりせず、倦怠感。ゆっくりと主日の礼拝、役員会の準備をする。午後から甘木教会へ。「るうてる」に今春、引退するA牧師の挨拶があった。「区切りの古希を迎えて、さてこれ

からどうしようかと思ひ巡らしところ、自分にはこれ以外な何もできないと気づきました。これとは説教を書くこと語ること」と一文がありました。先生が学校の英語の教師を辞め、神学校に入り、牧師になられたとき、私は隣の教会でした。神学校からぜひ教師へと呼び出されたとき、「学校の教師を辞めて、今更、教師はないでしょ。牧師しかありません。」と私に語られたことを今のように思い出します。初心貫徹で引退。おめでとうございます。日）誕生日を迎えるG君の誕生日を礼拝で祝う。説教は、コンニャク話？礼拝後、役員会、久しぶりに信徒さんと雑談。こういう時が一番、楽しい。話しているとY君の話になり、Hさんが小さい時のY君を知っていたということ。Y君のことで暖かい話に包まれる。これは、老いの恵み。月）5時15分のバスで福岡空港に、9時に大森に。二番目の孫に祝福の祈りをし、羽村に行く。途中、新宿高島屋に寄り、施設評価委員の方々、副園長、園長補佐が好きすだという回転焼き御座候を、職員には自分が食べたいので、坂角総本舗のエビせんべいを購入する。まだ、体調もあまりよくなく食事に気を付ける。立川駅で立ち食いそばを食べる。味が舌に戻って来て美味しくいただく。委員会も終わり、大森で孫たちに会う。ホテルで一泊。火）4時26分の電車で羽田に。福岡空港に着き8時半のバスで久留米に。会議に十分に間に合う時間だが、事故で高速道路が込み、会議に遅れる。電車にすればよかったと反省。九州、東京をこういう様に行けることが普通になった。これは、昔の人間である私には不思議な世界を体験しているように感じている。水）預かり保育の園児が返り帰宅。医院を閉める方から買った赤い車のおもちゃを宅急便で孫に送る。YouTubeの礼拝を聞く。S牧師の説教はなるほどの理知。O牧師の引退説教は情。引退された修道士を世話されていた山内保憲神父の四旬節黙想会、「『自己差別』に苦しむ修道士」の苦しむ話は、老いてくる聖職者の苦しみを聞く。身につまされる。木）松崎保育園の聖書の学び（箴言）、礼拝後甘木教会へ。草取りをする。金）昼過ぎまで日善幼稚園で仕事をし夕刻の飛行機で羽村幼稚園、理事会、評議員会で東京に。友人宅泊。今週もよく動いた。

